中国から今年も 53 名の JET 青年が日本へ！

2014 年４月８日、2014 年度の JET プログラムにより日本各地の自治体へ派遣される中国人 JET 青年の皆さんに向けた「渡航前オリエンテーション」が、在中国日本国大使館の主催により、北京市の日本大使館で行われました。

（１）渡航前オリエンテーション

今年度、中国各地から選抜されて日本へ派遣されたのは、地方自治体で国際交流活動を行う国際交流員（CIR）４９名と、小・中学校や高等学校において語学指導を行う外国語指導助手（ALT）４名の計５３名です。

「渡航前オリエンテーション」では、日本大使館木寺大使の挨拶のあと、まず JET-OB による経験談として、付博・元島根県国際交流員と安洋・元沖縄県外国語指導助手の ２名より、日本滞在中の経験から得た貴重なアドバイスをお話しいただきました。

続いて、日本大使館三上公使より「日本概況と日中関係、JET の皆さんに期待すること」をテーマに講演がありました。テーマ内容のほか、日本の現代文化や科学技術、流行など最新の時事トピックについても解説いただき、JET 青年の皆さんが両国関係にとらわれず、日中の地域間交流を積極的に進めてほしいとの期待の言葉が述べられました。その後、当事務所の寺崎所長より、「地方自治体の現状と課題～日本の地方自治体で働くための予備知識」をテーマとして、中国とは異なる日本の地方自治体の仕組みや、最近の地方自治を巡る話題のほか、地方自治体に勤めるにあたっての知識や心構えについて、講演が行われました。

オリエンテーションは長時間に渡って行われたものの、JET 青年の皆さんは、集中力を少しも途切らせることなく、各講師の話に聞き入っていたのが印象的でした。

当事務所寺崎所長からも講演

講演者の話に聞き入る JET 青年たち

（２）経験者らの話に興味津々

当日は JET 経験者らとの懇談の場も設けられました。懇談会には、今回派遣される JET 青年たちと JET 経験者のほか、日本の各自治体から北京へ派遣されている私たちクレア職員も参加し、フリートーク形式で活発に意見交換が交わされました。

JET 青年たちは日本に来たことはあっても、北は北海道から南は沖縄まで、それぞれが派遣される地域についての知識はあまり持っていません。そのため、自分たちが働く地域がどんな所なのか、とても関心が高い様子でした。派遣元の地域のことについて、質問責めに合うクレア職員の姿も見られました。

私自身も、四国の自治体に赴任される方々をはじめとして、JET 青年たちと親睦を深めあいました。その中で強く実感したのは、とにかくみな日本に対して強い好意と興味を抱いてくれているということ。日本での仕事や生活、地域に暮らす人たちとの交流が待ち遠しく、早く日本へ行きたい！といった熱い思いがひしひしと伝わってきました。

和やかな雰囲気のなか、JET 経験者らと話す参加者たち

（３）日中の架け橋として

1992 年に開始された JET プログラムによる中国人青年の日本への派遣者数は、今年度までで 1,200 名近くに上ります。JET 青年たちは赴任中、自治体での業務以外にも、地域で行われるイベントへの参加や、言葉や文化を教えあうことで、地域に根ざした交流を深めます。また、任務を終えて帰国してからも、多くの方が中国各地の政府関係機関や企業などで日中交流を担う仕事を行うなどして、日本との絆を保ち続けます。JET 青年はまさに、日中両国の友好交流の架け橋といえる存在です。

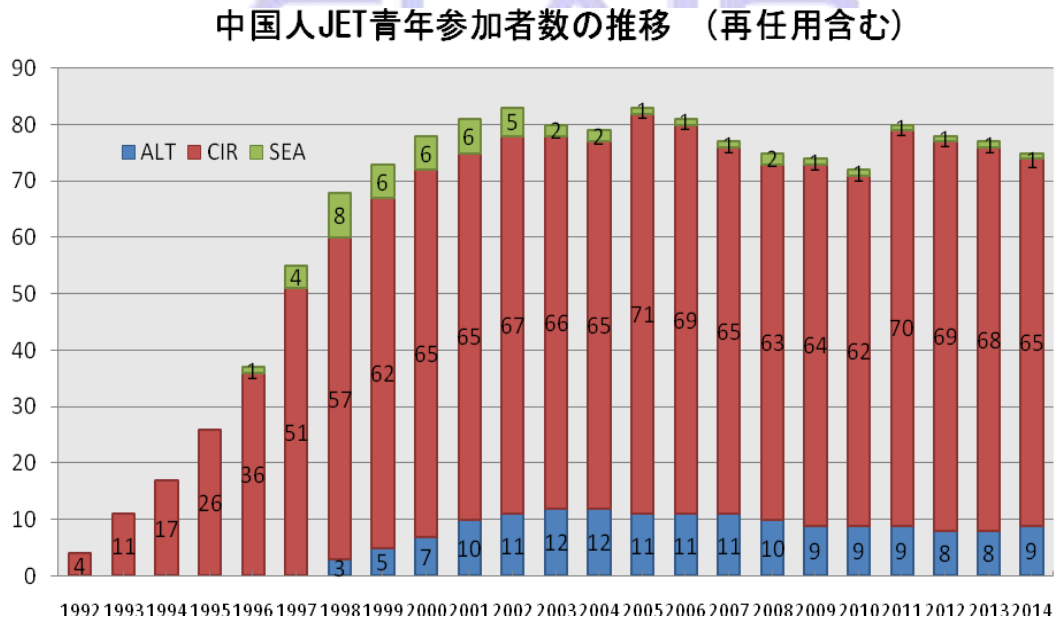
オリエンテーション翌日、日本へ元気に旅立った JET 青年の皆さんの活躍により、日中友好がさらに進展していくことに、大きな期待が寄せられます。

また、同じように日本の自治体から中国に赴任している私たちクレア職員も、同じ志を持つ若者として、日々励んでいかなくてはと、決意を新たにした一日でした。

日本に旅立つ前日、記念の一枚！

（濱岡所長補佐　香川県派遣）

～JET プログラムとは？～

日本の地域レベルでの国際交流及び外国語教育の充実を図り、日本と諸外国との相互理解、地域の国際化の推進に資することを目的に、世界各国から青年を招致している世界最大規模の国際交流事業です。

クレアでは、この JET プログラムを円滑に実施するため、日本の関係省庁及び受入団体との連絡調整、受入団体への外国青年の斡旋・配置、受入団体への助言・指導、外国青年に対するオリエンテーション・研修、カウンセリング及びプログラムに係る広報活動などを実施しています。